



申請に必要な書類や保育園の情報が記載されている「保育所ガイド」を、こども家庭課、各支所市民生活課で配布しています。

平成25年4月からの

# いしかりの保育園

区分	保育園名	住所 電話	定員 (人)	対象年齢	保育時間	時間延長保育(別料金)		障がい児 保育※
						午前	午後	
認可 保育園	石狩仲よし保育園	花川北4条3丁目5-3 ☎74-4388	90	8週間～ (生後57 日目)	7:30～18:30	7:00～	～19:00	○
	えるむ保育園	花川北2条5丁目63 ☎74-0696	90			7:00～	～19:00	○
	友愛保育園	花川南8条3丁目153-3 ☎73-6686	60			7:00～	～19:00	○
	まきば保育園	樽川6条2丁目600 ☎72-0050	60			7:00～	～19:00	○
	南線光の子保育園	花川南4条3丁目2 ☎73-0773	120			7:00～	～19:00	○
	緑苑台子どもの家保育園	花川東1番地2137 ☎77-6600	80			7:00～	～19:00	○
	えるむの森保育園	花川東93番地5 ☎75-5522	90			—	～20:30	—
	認定こども園花川南保育園	花川南9条4丁目83-9 ☎73-8100	120			7:00～	～19:00	○
くるみ保育園	八幡1丁目433-14 ☎66-4500	60	7:00～	～19:00	○			
へき地 保育園	公立 聚富保育園	厚田区聚富287-26 ☎66-4241	50	3歳～	8:00～17:00 (土曜日は12:00まで)	—	～18:00 (土曜除く)	—
	厚田保育園	厚田区厚田2-4 ☎78-2440	70	2歳～		—	～18:00 (土曜除く)	
	はまます保育園	浜益区川下392 ☎79-2264	70	2歳～		—	～18:00 (土曜～16:00)	

※心身に程度の軽い障がいのある児童を、ほかの児童と一緒に集団で保育します

入園希望児童数が各保育園の入園可能人数を超えた場合には、入園選考基準に基づき、家庭での保育が困難なお子さんから優先して入園が決定します。申し込み順ではありません。

## 選考方法

## 入園基準

- 家庭外で常時仕事をしている場合
- 家庭内で児童と離れて、常時家事以外の仕事をしている場合
- 家庭外で常時就学または技能訓練をしている場合
- 出産の前後である場合  
(出産予定日前・出産後各8週間を限度とする)
- 疾病、負傷、または心身の障がいにより保育できない場合
- 疾病、負傷、または心身に障がいがある方を常時介護している場合
- 就労のため求職活動を行っている場合  
(2カ月以内を限度とする)
- 火災・風水害などで住宅を失ったり破損したため、その復旧をしている場合など

認可保育園は、日中お父さんのお子さんの保育をすることができない家庭に、利用いただく児童福祉施設です。次のいずれかの事情で、保護者および同居の親族等が保育できない場合が対象となります。

## 入園基準

1月15日(火)～2月14日(木)  
※郵送不可

## 入園申込期間

◎ 同一世帯から2人以上の児童が入園している場合など、軽減制度があります。  
◎ へき地保育園保育料は一律1万2千円です。給食実施園については、別途給食費がかかります。

※所得税額が0円の場合は前年度分市町村民税課税額

認可保育園の保育料は、同一生計を営む父母など扶養義務者の前年分の所得税額と、児童の年齢等で算定します。税制改正により、年少扶養控除および一部特定扶養控除については廃止されましたが、保育料については廃止前の控除額で計算します。住宅取得控除等を受けている方は、控除前の税額で算定します。

## 保育料について

平成25年4月より、へき地保育園の厚田保育園とはまます保育園については入園できる年齢を3歳から2歳に引き上げることになりました。平成25年4月1日現在で2歳とのお子さんの入園を希望される場合は、認可保育園と同様の入園基準となります。

## 「へき地保育園」について

同じ敷地内に認可幼稚園と認可保育園が併設され、幼稚園児と保育園児が一緒に幼児教育や保育を受けることができる施設であり、市内では花川南保育園が該当します。申込方法は、ほかの認可保育園と同様です。花川南幼稚園を希望する場合は直接幼稚園へお問い合わせください(☎73-8686)。

## 「認定こども園」について

# 子母澤寛の『厚田日記』

大河ドラマになった「勝海舟」、勝新太郎をはじめ何人もの役者が演じた「座頭市」などの原作を書いたことで知られる子母澤寛は、石狩市厚田区の出身です。新聞記者などを経て、時代小説の大家となり、数多くのベストセラーを書きました。

子母澤寛が、晩年に残した秀作に『厚田日記』があります。幕府御家人で江戸や箱館で政府軍と戦ったといわれる、育ての親でもある祖父から聞かされたであろう話をもとに、

作家として長年培った経験で、短編ながら読み応えのある小説に仕上げています。

物語は箱館戦争の敗残兵7名が厚田に落ち延びてきた所から始まり、脱落者や死者も出て残った4人が、地元アイヌの中に溶け込み暮らします。そこに、開拓判官松本十郎が登場します。この判官と主人公齋藤鉄太郎は、若いころ江戸の剣術道場の同門で仲が良かったという設定です。松本十郎は庄内藩時代、蝦夷

地に派遣され、浜益のハマシケ陣屋に赴任していますが、その後江戸でも活躍した幕末の志士の一人です。戊辰戦争では幕府側に立つて戦いましたが、敵将だった黒田清隆に見込まれ、維新後北海道開拓の責を任せられます。齋藤鉄太郎のモデルである子母澤寛の祖父、梅谷十次郎は、本当に松本と懇意だったのかは分かりませんが、劇的な松本とは対照的に厚田で暮らす齋藤が描かれます。中学に入り厚田を出た子母澤寛

は、その後厚田に帰ることはありませんでしたが、厚田に残った義妹や厚田の人たちとの交流はありました。晩年まで厚田を思う心が強かったことは、随筆や書簡などを読むと分かります。

その『厚田日記』の自筆原稿ですが、書かれた後作者から誰かの手に渡ったのでしょうか。2012年の夏、古書入札に掛かり、

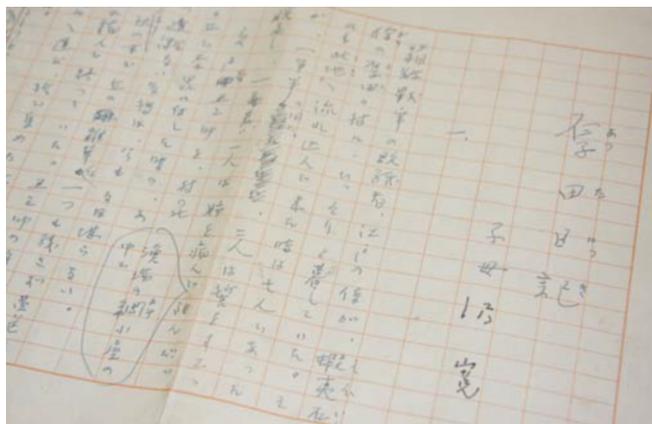


自筆原稿は12/10(月)にオープンした「あいかぜとじよかん」でも展示されました。

札幌の古書店が落札しました。その原稿を「札幌はまなすロータリークラブ」が買い上げ、石狩市民図書館に寄贈していただきました。市民図書館で公開後、子母澤寛の母校である厚田小学校図書館でも公開しましたが、今後は原稿の劣化を防ぐため、複製の展示を予定しています。故郷を出て数十年後、祖父や故郷を思いながら書いた小説の自筆原稿が、生まれ育った厚田の地で地元の人たちの目に触れている光景を、

もし子母澤寛が見たらどのような思いを持つでしょう。

(市民図書館副館長 丹羽秀人)



『厚田日記』の自筆原稿



子母澤 寛 Shimozawa Kan

1892年2月1日 - 1968年7月19日、小説家。石狩市厚田区出身。明治大学法学部卒。『新選組始末記』をはじめ維新に関わる作品多数。また、大衆的な時代小説も数多く、映画・テレビ化されている。

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。